

漁港の総合的な機能整備～自然調和型で漁港と漁場の一体的整備

○秋田県金浦漁港の事例

【主な課題】

・魚礁や増殖場の整備により、生産量は安定しているものの、魚価低下により、陸揚金額の伸び悩み
⇒消費者ニーズの高いアワビ、イワガキ、ヒラメ等の資源増大に向けた取り組みが必要
(水産生物の良好な生息環境の場を漁港、漁場で一体的に整備、つくり育てる漁業との連携)

【事業・取り組み】

・自然調和型漁港づくり

港内の静穏度確保と水質向上を両立
(海水交流と藻場造成(マウンド部を活用)が可能な防波堤)
漁港の水域を漁場として積極的に利用(漁場整備と連携)

・つくり育てる漁業との連携

泊地における蓄養・中間育成
港内における磯根資源等の増殖
漁港の施設整備(捨石マウンド等)と放流事業との連携

・金浦地区地域水産物供給基盤整備事業

(H14～H23、自然調和型漁港づくりの施設整備)

【事業効果】

○港内の水質向上

COD 2.8mg/L (H7) → 1.4mg/L (H16) ※環境基準類型B → 類型Aへ
DO 6.3mg/L (旧港内) → 6.8mg/L (新港内) ※環境基準類型Bでの向上

○磯根資源の増殖

アワビ: 10t/年 → 12t/年、岩ガキ: 124t/年 → 154t/年へ

○中間育成の効果

マダイ: 20万匹の中間育成による資源増加

○種苗放流の連携

藻場増大によるアワビの餌場の拡大と漁獲の増大

マダイ等の放流魚種の保育園としての役割

○地域振興の取組

漁獲増に伴う加工品の開発・販売(カレイ加工品を地元、首都圏で販売)、ハタハタ祭り等の地域イベント、観光、都市交流との連携

